令和元年度和裁士技能検定（1級）学科試験解答

実施日：令和2年3月8日
所用時間：90分

1. 次の着装に関する説明文の中で、正しいものには○、誤っているものには×を（　　）の中に記入しなさい。（配点５点）

①（ × ）女物和服の礼装用の帯には、染物が適している。
②（ × ）鮫小紋の着物は、紋を付けても略礼装にはならない。
③（ × ）女物の羽織・道行コートは、室内では着用しない。
④（ ○ ）色無地の一ッ紋付は、帯を替えれば、慶弔ともに使用できる。
⑤（ ○ ）男子正式礼装は、慶弔ともに同じであるが、祝儀には扇子を持つ。

2. 次の紋の名称を下記の語群から選び（　　）の中に記入しなさい。また、よみ仮名を《　　》の中に記入しなさい。（配点１０点）

（五七の桐）（片　喰）（違い鷹の羽）（　橘　）（梅　鉢）
《ごしちのきり》《かたばみ》《ちがいたかのは》《たちばな》《うめばち》

・剣片喰	・九曜星	・五三の桐	・木　瓜	・橘
・梅　鉢	・違い鷹の羽	・片　喰	・蔦	・五七の桐

3. 下の表は和服の紋下りを記したものです。表を完成させなさい。《※鯨尺でもcmでもよい》（配点５点）

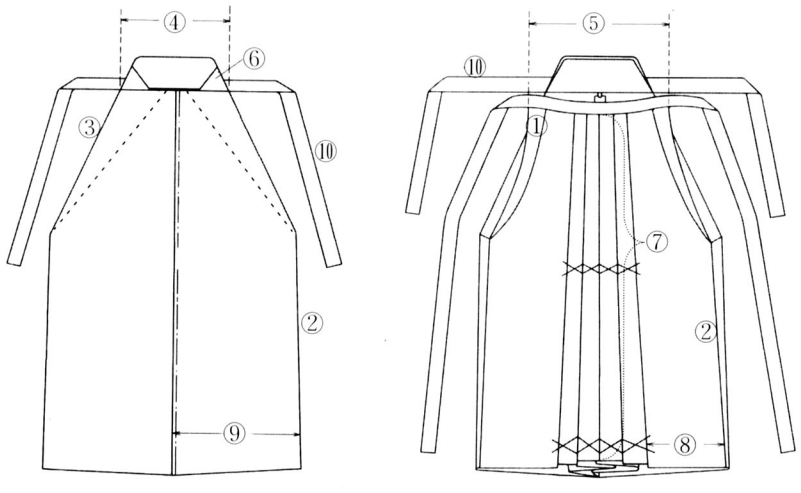
	本　身	四ッ身	一ッ身
背紋下り（衿付けより）	5.7cm 1寸5分	4.5cm 1寸2～3分	4cm 1寸
袖紋下り（袖山より）	7.5cm 2寸	6.5cm 1寸7分	6cm 1寸5分
抱き紋下り（肩山より）	15cm 4寸	13cm 3寸5分	11cm 2.9～3寸

4. 次の説明文の（　　）の中に、適当な語句を記入しなさい。《※鯨尺でもcmでもよい》（配点５点）

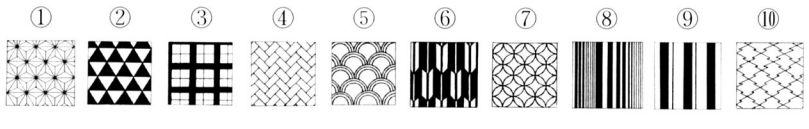
① 名古屋帯の太鼓の柄は、垂先から柄の中心まで（ 1尺8寸/68.2cm ）にする。
② 男袴の前紐の丈は、胴まわりの（ 3.5～4倍 ）が標準である。
③ 丸帯の帯丈は（ 4m20cm/1丈1尺 ）くらいである。
④ 女物着物の身丈は（ 身　長 ）と同寸である。
⑤ 女物着尺で、掛衿を2本取りする場合、（ 50cm/1尺3寸2分 ）余分にあれば出来る。

5. 男物襠袴（馬乗袴）を前から見た場合と、後ろから見た場合の完成図を描き、下記部分がよくわかるよう、それぞれ所定の位置に記号を入れなさい。（配点 図10点/名称10点）

①笹ひだ　②相　引　③投　げ　④後腰幅　⑤前腰幅
⑥付　菱　⑦紐　下　⑧前脇幅　⑨後　幅　⑩後　紐

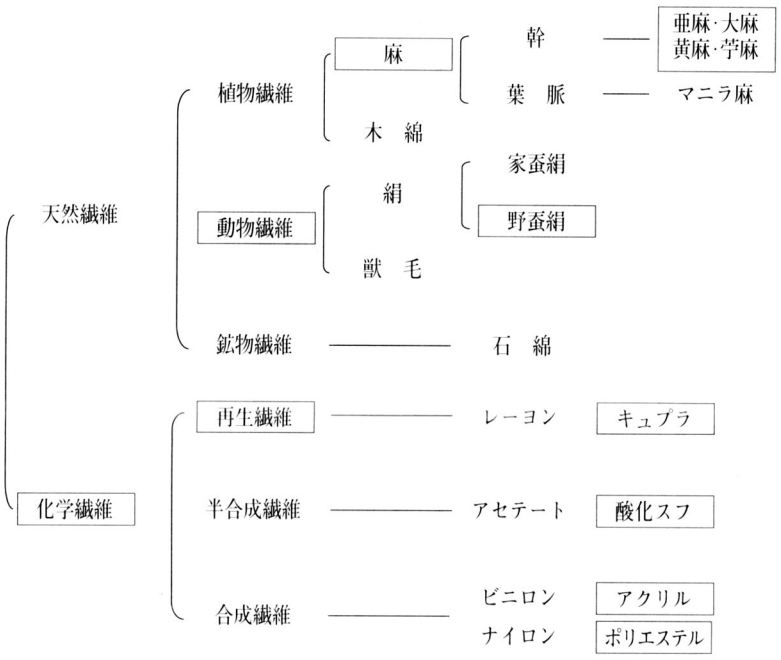


6. 下記の模様の中で語句が正しいものには○を、誤っているものには×を（　　）の中に記入しなさい。（配点１０点）

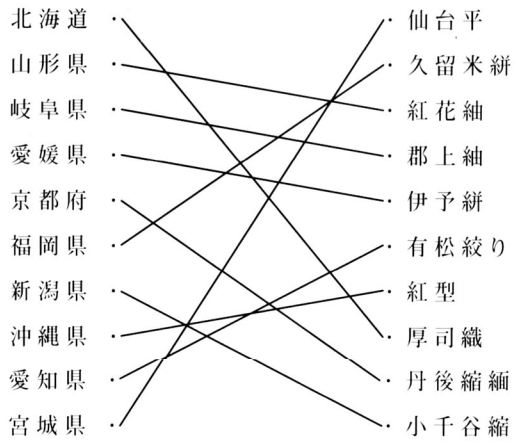


①麻の葉（ ○ ）　②市松模様（ × ）　③翁格子（ ○ ）　④紗綾形（ × ）　⑤亀甲（ × ）　⑥矢絣（ ○ ）　⑦鱗（ × ）　⑧滝縞（ ○ ）　⑨大名縞（ × ）　⑩松皮菱（ ○ ）

7. 下の表は繊維の分類を示したものです。表を完成させなさい。（配点１０点）

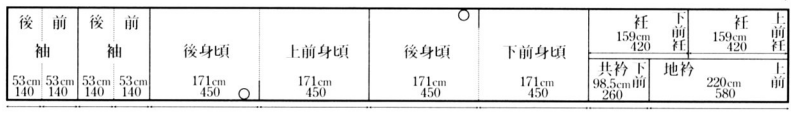


8. 下記の織物の産地を線で結びなさい。（配点１０点）



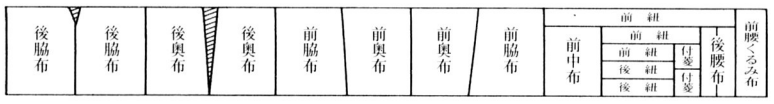
9. 次の5問について、各部分を寸法に応じ配分し、その名称をよく分かるように記入して裁断図を書きなさい。（裁ち切は実線・折り山等は点線で記入）（配点各問５点）

① 並幅物12m12cm（3丈2尺）の反物で、一ッ紋付本裁女物長着を下記指定寸法で追い裁ちにしたい。
裁断図および各部の寸法と名称、紋の位置を記入しなさい。
身丈背より出来上がり163cm（4尺3寸）・袖丈出来上がり49.2cm（1尺3寸）
繰越2cm（5分）・褄下（衿下）出来上がり81.5cm（2尺1寸5分）・他は標準寸法とする。



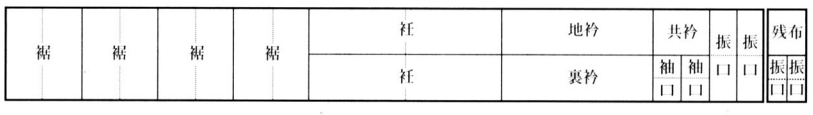
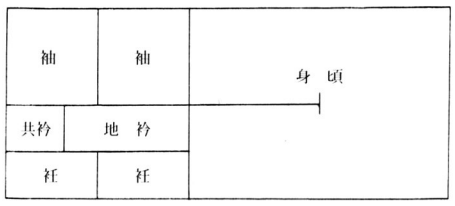
（注）袖の前後、上前身頃、上前衿、上前共衿、上前衽裾などの位置を明記すること。

② 並幅物10.2m（2丈7尺）の反物で、男物行燈袴を作りたい。その裁断図を記入しなさい。



③ 並幅物15.2m（4丈）の反物で、四ッ身長着（共裾）と羽織を裁ちたい。
その裁断図を記入しなさい。

④ 並幅物11.8m（3丈1尺2寸）の反物で、留袖用比翼を作りたい。その裁断図を記入しなさい。ただし、袖は口・振とし、衿裏共布とする。



⑤ 大幅物6m（1丈5尺8寸）の反物で、女物長着を作りたい。その裁断図を記入しなさい。